

## ロタウイルスワクチン（ロタリックス、ロタテック）

ロタウイルスワクチン（任意接種・生ワクチン）を飲んで（経口）ロタウイルスによる胃腸炎を予防します。→[ウイルス性腸炎](#)

ワクチンは内服（経口摂取）しますのでワクチン前に授乳するとお腹が一杯で飲まなかったり、吐きやすくなってしまいます。ワクチンの前後 30 分は授乳を控えてください。

### スケジュール

接種できる期間が短いので、初回接種をできれば生後 2 か月の誕生日、遅くとも生後 3 か月半過ぎ（生後 14 週 6 日）までに受けるようしましょう。ロタリックスは生後 23 週 6 日、ロタテックは 31 週 6 日までに予防接種を完了してください。それを過ぎると腸重積の好発時期になってしまうので接種できなくなります。

ロタリックスとロタテックという 2 種類のワクチンがありますが、ワクチンの種類により接種スケジュールが異なり、途中でワクチンを変更することはできません。いずれのワクチンも生後 6 週から接種（経口）ができ、4 週間隔で 2 回（ロタリックス）または 3 回（ロタテック）接種します。どちらのワクチンも効果や副反応に大きな差はありませんが当院では接種スケジュールを立てやすいロタリックスを採用しています。

ロタウイルスは一度感染しただけでは十分な免疫はできず何度も繰り返し感染しますが、特に初感染時に重症化します。ロタワクチンは初感染時の重症胃腸炎を予防できますがその後も軽症なものには何度もかかる可能性があります。

ロタウイルスにかかってしまうと根本的な治療法はありませんが、ワクチンで重症になるのを約 90%防ぐことができます。定期接種になったイギリスではロタウイルス感染が 84%減少したとの報告もあり、日本でも今後定期接種になることが期待されます。

なお、このワクチンは以前に腸重積症を起こした子どもや、腸重積症を起こしやすい腸の病気の子どもは受けることができません。

ロタウイルスワクチンは生ワクチンのため、接種後に 4 週以上間隔をあげなければ次のワクチンを接種できません。生後 6 週から接種できますがほかにも接種が必要なワクチンが多数ありますので、同時接種で受けることが重要です。具体的には、生後 6 週になってすぐではなく生後 2 か月になってからヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン B 型肝炎と同時接種で受けることをおすすめします。

## 副反応

下痢や便の回数が増える、ぐずる、咳や鼻水などの副反応が時々あります。

重大な副反応として腸重積があります。

激しく泣いて泣き止むことを繰り返す、嘔吐、顔色不良、しばらくしてからイチゴジャム様の血便などの症状が見られます。このような症状があったらすぐに救急病院を受診してください。腸重積であった場合当院を含めクリニックレベルでは診断や治療が困難なことがあり時間のロスにつながりますので初めから2次以上（入院対応可能）の救急病院を受診してください。